鹿児島県　グループホームローズタウン　ヴィオラ

自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
	合計 100

○記入方法
［取り組みの事実］
　ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）
［取り組んでいきたい項目］
　今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。
［取り組んでいきたい内容］
　「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。
　また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。
［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
　日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入しま
　す。

○用語の説明
家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族　　＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明
評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 （ユニット名）	グループホーム　ローズタウン ヴィオラ
所在地 （県・市町村名）	鹿児島県鹿児島市下荒田二丁目1－16
記入者名 （管理者）	峯苫敏彦
記入日	平成 20年　8月 15日

鹿児島県　グループホームローズタウン　ウィオラ

地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「理念」は出来ているが、利用者は施設の中での生活がメインで、もっと地域にはいれる様に理念の意味合を再考しなければならない。	○	理念を通じて利用者、家族、地域、職員で調和出来る様努力し、その人がその人らしく地域で生活していくことを支えてゆきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに掲示したりや、時につけ、理念を唱和しているが、形式的になったりしていて、ケアに行き詰まった時などに理念にかえれる様になったらいいと思う。	○	「理念」の意味合や「理念」の大事さを全員で「継続」出来る様にもう少し努力が必要である。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	施設発行の新聞や家族へのたよりには理念を入れ込んで理解してもらう様にしている。	○	認知症と認知症の人を理解して頂ける様、理念を通して実践出来る様、働きかける。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者のみはよく隣近所の方とつきあいが出来ているが、職員はあいさつ程度である、こちらからの働きかけが足りない様に感じる。	○	まだまだ気軽に地域住民の方が立ち寄って頂ける働きかけをもう少し工夫する。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や地域の行事には、積極的に参加しているが、施設本位になっている様な感じである。	○	もっと、入所している方と地域との関係が、密になる様に働きかけたい。

鹿児島県　グループホームローズタウン　ウィオラ

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に対して認知症介護の勉強会等を開催したり、各種地域団体に出向き、ケアに関する事を話している。	○	地域高齢者や介護されている家族の方の為になる様な中身の充実や工夫がもう少し必要である。(制度、介護技術、気持ち)
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	勉強会等でスタッフ全員で、評価の意義を理解しているが、継続して念頭に入れて実践しているか、疑問に思うことが少しある。	○	自己点検や施設点検の指針として、いつもスタッフが継続して実践していける様、更なる努力が必要である。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価については運営推進会議で、取り組みや内容については、説明してアドバイスをもらっている。	○	運営推進会議のメンバーの方が当施設を自己評価してくれる様なものを計画していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議などに参加を依頼するもなかなか参加してもらえない。事務的なことのみになっている。	○	もう少しこちらから介護や地域との関わりについて積極的に相談していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、ある程度、権利擁護に関する制度を知っているが、他の職員への周知が不徹底である。現時点では、活用している人はいない。	○	基本的には身元保証人を何人も立てているが、身元保証人で高齢の方もいるので、スタッフへの周知を早急に行っていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待については、何度も学びの場を設けているが、業務の忙しさの中でついついスタッフが発した言葉の中に虐待に近いものがあったりするのではないかと思う場面がある。	○	相手の立場に立って、自分がこう対応されたらどうだろうかと常に考える必要があると思う。

鹿児島県　グループホームローズタウン　ウィオラ

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明はしているつもりではあったが、実際入居してから、想定していなかった事が発生して、利用者や家族を戸惑わせる事があった。	○	事前にもう少し時間をかけ、あらゆることを想定して、説明していかなければならない。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まだ十分ではないが、その様な機会をたくさん設けていける様努力する。	○	自由に利用者が意見を出せる様な環境作りや日々の信頼関係を工夫していかなければならない。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月便りを発行して、その中の暮らしぶりを報告している。金銭管理についても毎月報告をしている。病状については、主治医より、随時説明はおこなっている。	○	認知症よりくるいわゆる問題行動に対しては、報告の仕方が勉強不足があり、本人の気持ちを代弁する様な報告になっていない。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会に出来るだけ会って話はする様に努め、意見の反映が出来る様にしている。	○	「字」や「言葉」のみに限定せず、家族等の表情などから、表に出ない意見を推察して対応できたらと思う。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが自由に言える雰囲気作りへの配慮がまだ不十分である。「わかっているだろう」という思い込みもある。	○	日々のスタッフとのコミュニケーションの取り方を工夫したり、徹底したりしないといけない。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者状況に合わせた業務変更は行っている。利用者サイドに立った柔軟な対応が出来ているとは言えない。	○	スタッフサイドの勤務調整や人員配置になっている事がまだまだ多い様である。その人を支えるローテーションには、なっていない様である。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は行わず、固定にしている。離職に対しては、できるだけ抑えなければならないが、なかなか難しい。	○	スタッフとのコミュニケーション、ストレス解消、待遇などしっかり考えていかないといけないと思う。

鹿児島県　グループホームローズタウン　ウィオラ

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会には、研修内容に合わせ、スタッフを参加させている。毎月研修会を自主的におこなっている。働きながら、トレーニングできる内容を紹介している。	○	年間を通して研修計画がないので、今後は計画していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に加入して同業者と交流する機会が増えている。他施設とスタッフ交換などを行っている。	○	まだまだ他の施設との交流を促進して、スタッフのレベルアップになる様に合同勉強会なども計画していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフのストレス軽減の為、親睦会など設けてはいる。機会があるごとにコミュニケーションを図っている。	○	引き続きスタッフのストレスの軽減の為、コミュニケーションを深めていって欲しい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの日々の努力や、向学心については、一応把握はしているが、より高いハードルを求めてしまう事がある。	○	長期的展望に立って、本人にプレッシャーにならない様にアドバイスやストレス軽減に努め、本人のレベルアップにつなげていきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	どうしても家族主体になっている事が多く、本人の不安や要望などを把握できていない様なところもある。	○	「まずは本人の話を聴く」事を念頭に何でも話やすい雰囲気作りをもっと工夫する必要がある。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の要望や不安な事は、できるだけ聞く様にしているが、入所してから、いろいろなことを聞かされることもたまにある。	○	初期に充分な話し合いの機会や時間を設け、家族の要望や不安の解消に努め、施設との信頼関係を構築出来る様にしていきたい。

鹿児島県　グループホームローズタウン　ウィオラ

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設の入所のみに限定せず、法制、サービス内容、事業所紹介等を積極的に行っている。	○	相談に来られた方が精神的に楽になって帰って頂ける様に、引き続き対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まだ不十分である。ご家族との相談は、なかなかできていない。入所したら、「そちらに任せます。」の言葉に、馴れ合いになっているかもしれない。	○	スタッフは、本人が戸惑うことなく早く馴染める様に言葉かけの工夫やケアの統一を図っていかなければならない。家族への経過報告も、もっと徹底して、要望を取り入れていく。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ついつい業務の忙しさを言い訳にする時もある。ただ単に寄り添うだけではないという意識に少し欠けている。	○	支えあう関係の為には、一緒にするだけではダメで、グループホームのケアでの意義をより一層、全員で共通認識として、持っていかなければならない。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人への想いがまだまだ理解できず、スタッフの価値観で家族に話をしている事もある。	○	家族会のみに限らず、日頃の家族とのコミュニケーションを密に行う。御家族とスタッフが共に本人を支えるという意識を持っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係の理解にあまり努めていないかもしれない。家族の言葉に左右されるところがたまにある。	○	御家族の折り合いは持ってもらうが、双方良い関係が出来る様に支援策を検討していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	意思表示できる人のみ限定されているかもしれない。	○	本人が遠慮せず、又、本人の希望を引き続き出せる様に、声かけや環境作りにより一層努力していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフの中でも反応の良い利用者に対しては、熱心に対応する。そういった態度が知らず知らずに孤立している利用者を出しているかもしれない。	○	「問題行動」に対し、受け止め方を工夫したり、もう少し真剣に考えていかなければならない。

鹿児島県　グループホームローズタウン　ウィオラ

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在は取り組んでいない。契約終了後、利用者や家族の向い合わせがあった時は応じているが、こちらから積極的には、取り組んでいない。	○	引き続き利用者や御家族からの向かい合わせや相談には応じていく。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフによっては、まだ把握が不十分なスタッフもいる。スタッフの価値観が先に立つこともたまにある。	○	本人の思いを遠慮せず口に出してもらう様に、そして全職員で共有できる様努力していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけ、把握に努める様にしてはいるが、スタッフによっては、把握の方法について苦慮しているスタッフもいる。	○	利用者から逃げることなくしっかり情報収集して皆で共有し、ケアに活かす様、努力していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	把握不足により、間違ったり、過剰なケアになっていたりすることもある。	○	情報をたくさん持っているスタッフは、対応策もたくさん持っている。この考えで、より一層、現状の把握に努めなければならない。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人家族へは、作成する前に希望がないか尋ねる様に心がけてはいるが、不十分である。また、理解できていないまま支援している職員も多い。	○	御家族、職員とも、もう少し話し合う機会を設け、本人を取り巻く全員が、介護計画の内容を理解し、共有しながら支援していけるように努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一定期間に見直しをしているが、家族や本人、スタッフとの話し合いが不十分な時がある。	○	おおまかな話し合いになっているので、良く相談したうえで、見直しをおこなっていきたい。

鹿児島県　グループホームローズタウン　ウィオラ

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や本人の発言など書くようにしている（時間毎）。ただスタッフによっては、気づきが少なく、記録に反映されていないこともある。	○	もっと、スタッフが気づきをたくさん持ち、気づきの大事さを理解し、記録に反映され、多くの情報をみなで共有出来る様にしていきたい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の認知症デイとの交流などを行っている。	○	本人の希望の場所に出かけるのはもちろん、地域住民の方へのサービスも今後検討していきたい。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	少しずつではあるが、他方面の方と、協働して支援を行っている。まだ全体的には少ないかもしれない。	○	機関によっては、まだ協働が希薄なところもある。もっと密になる様、こちらからも積極的に関わっていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域への呼びかけは行っているが、まだ活用は少ない。	○	地域ネットワーク作りを推しすすめて、地域全体で支援できる様に少しずつ行っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に行っていない。	○	何度も働きかけを行うも、協働できていない。もっと働きかけていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には、本人が受診する理由がわかり、納得できる様に説明と声かけを行うようにしている。また、受診後には、本人へも結果報告を行い、不安のない様にしている。御家族に対しても、受診内容によって、報告、相談を行っている。	○	連携不足で、本人や御家族に不安を抱かせる事もまだあるので、しっかり連携し、不安の解消に努めていきたい。

鹿児島県　グループホームローズタウン　ウィオラ

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は、認知症に詳しく、いろいろ相談できるが、もっとスタッフの相談不足がある様に感じる。	○	もっと積極的に、かかりつけ医との連携が深まり、ケアの充実が図れる様にしていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療面で疑問に思ったことに対応したり、指示はもらえる様になっている。夜間帯においても対処法が聞ける体制になっている。	○	スタッフも日々様子観察の徹底と、医療面の勉強を、もう少し積極的に行っていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時においては、利用者の状態を詳しく書いた連絡表を書く様にしている。入院中は、面会をまめにおこない、情報交換には努めている。	○	たまに連絡内容にずれが生じていることもある。情報交換を密により一層行っていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、かかりつけ医、家族、スタッフは、方針については、理解しているが、肝心な本人の意向については反映されていない様である。	○	本人にとってどうすれば一番良いのか、本人はどう思っているのか、本人主体に視点をおいて考えていかなければならない。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入所時点で最後までという気持ちはある。御家族や、かかりつけ医も終末期の支援をしていく事は理解している。まだまだ検討や準備が充分とは言えない。	○	本人にとって良い終末期を迎えられる様、それぞれ役割を持って支援出来る様に、より具体的にすすめていかなければならない。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活状況や、病状については、先方には、十分伝えてある。移った後の事については、確認していない。	○	現行のままでいくが、はたして情報交換が必要か疑問である。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他の入居者へには、分からないように言葉かけは、耳元や、本人と2人きりのときに行っているが、職員と本人の間ではプライバシーは守られていないと感じる。全てにおいて。	○	清拭一つにおいても「仕方がない」と感じるのではなく、「うれしい」と感じるように、心のつながりを大事にし、プライバシーのなかでケアしていける様になりたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段からコミュニケーションをとり観察し、言葉が出せない方でも、うなずき、首振り、返答で意思を受け取る。	○	人前では、気持ちを出せない方もいらっしゃるので、居室など2人で（本人とスタッフ）よく話し合い、本人の思いを、小さなことでも決めていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の大まかな事は決まっており、本人の希望は優先されておらず、無理に、入浴、散歩、レクリエーションの参加はされていないが、毎日特別な日ではなく、似かよっている。	○	「今日は、過しましょうか？」とゆっくり話し合い、外出したり、一緒に編み物をしたりする日を作り、日常を楽しんで過していただきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	「髪を切りたい」といわれる方は、1～2人程度で、職員の判断で、髪を切る（長さ、形）事を決めている。美容も職員が行っており、本人自ら行う事が少ない。	○	施設の近くに住んでいる方は、行きつけの店に足を運び、話をしながら、楽しんでいただきたい。本人の口から、「そろそろ切りたい」と言われ、カットに行きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決めたり、一緒に準備や片付けを行っているがいつも同じ方になりがちだったり、「刺身」を食べたいといわれる事があり、好きなものを食べていないのでは？	○	献立を尋ねると、「何でも良い」と答えが返ってくることがあり、野菜、肉、を実際に見て、触って、「何を作ろうか？」と声が聞ける様になりたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	20時のお茶は、本人の希望を尋ね、一人ずつ違った飲み物を楽しんでいただいている。15時のお茶うけを漬物を漬けたり、一緒に作ったりと支援している。	○	飲み物、おやつ等、本人に合わせているが、いつも同じ場所（自席）で変化がない。外や公園で、お茶する機会を作りたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄のパターンに合わせて、トイレの声かけ案内を行っている。便失禁の時は、下半身シャワー浴等を行っている。	○	本人への声かけ、スタッフ同士の声かけ、排泄○、排便△と、○△×で表し、本人、他の入居者にわからないようにしているが、「出た？」「ダメだった？」等本人の傷つく言葉を口に出している時がある。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯、入浴する順番、すべて、職員が決めている。入浴している時間は、本人の希望だが、着脱時、過剰介護を行っている場合もある。	○	本人の希望に合わせて時間を気にせず入浴していただきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後、休息される方がいらっしゃるので、自室や和室を使い、休んでいただいている。ある程度時間が経ったら、声かけをして起きていただく。	○	自室に入られると、なかなか出てこられない方がおり、自然に出入りできるような環境作りをしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花をされていた方、裁縫をされていた方、一人一人役割を作り、楽しみながら、支援を行っているが、毎日ではなく、時々である。同じ方に偏りがちである。	○	職員一人一人と向き合い、少人数(1～2人)で関わる時間の余裕を作り、興味のある事に一緒に関わっていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を気にされる方は、一定の金額を、預かり金より財布に入れ、安心していただき、買いたいものを買っていただくように支援している。	○	「今から買い物に行きたい」と言われた時、すぐに外出できなく、数日経ってからの外出になるので、すぐにその時の気持ちを大切にして外出の声かけして、買い物をしてもらいたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩の実施を行っており、散歩コースも変えているが、「家に帰りたい」等、遠い場所を言われる方には、希望通り支援できていない。	○	入居者一人に対し、スタッフ一人が対応できれば、本人の好きな場所、気が向くままに出かけられ、もっと好奇心が沸いてくるのでは？
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日以外でも、担当のスタッフと2人で外食をしたり、外出を心がけているが、突発的な外出は、1～2割程し外出できていない。	○	外食や遊びだけでなく、本人の望まれている場所、お墓参りや友人に会うという事は、実施しておらず、定期的にいけるようになりたい。

鹿児島県　グループホームローズタウン　ウィオラ

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や贈り物が届いたり、こちらからの用で、連絡する時は、本人に代わって、話をさせていただいている。本人専用の携帯電話を使用されている方もいる。	○	手紙が届くと、職員の方から、積極的に返事を書いてみましょうと声をかけていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等、訪問された時は、自室や和室へ案内し、時間を気にせず過していただいている。施設入り口が入りにくいようである。	○	普段から、施設を入居者が行き来していたり、外に居たら、もっと家族や友人も訪問しやすいと思う。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体を動かさないようになど身体拘束は行っていないが、「待ってて」「まだ待ってください」等、言葉で拘束しているところがある。	○	安心、安全を考えると、付きっきりになるので、つい言葉で拘束してしまう。その人中心に動けるような体制が出来ればよいと思う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室については、夜間本人の意思で鍵をかけられる方もいる。	○	日中玄関も鍵があり、スタッフの「安心」になっているかもしれないので、もっと、スタッフの技量や配慮する力を高めていかなければならない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	まだまだスタッフサイドの「安全」や「都合」が優先している時もある。	○	本人の気持ちにもっとなってみないといけない。プライバシーへの配慮は、すべての配慮につながる事をもっと自覚しないといけない。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	なかなか利用者本位で考えていない。ついつい「安全」を優先するスタッフの思い込みがまだある。	○	「出来る事」「出来ない事」の見極め力が、まだ不足なのかもしれないので、努力していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書があり、全員で見て考える様にしている。事故発生が何故起きるか、原因の中でスタッフが予防出来る事や配慮すべき事について、もう少し考えていかなければならない。	○	利用者一人一人に合わせた事故を予測でき、対応方法を常に頭に入れておきたい。

鹿児島県　グループホームローズタウン　ウィオラ

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがあり、スタッフは、確認できるようになっているが、回数がまだ少ないかもしれない。	○	繰り返し年間計画などに入れて、いざという時、慌てない様にしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方との火災訓練は行っているが、他の災害を考慮したものは、まだやっていない。	○	消防署などに、他の災害時の対応策についてアドバイスをもらう様、早急に計画していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ついつい安心な事を伝える傾向があるかもしれない。状態変化に応じたリスクをしっかり伝えず、ついつい家族の発言をうのみにすることもある。	○	事前にリスクはしっかり家族に伝え、納得出来る様、より一層努力していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフによって力量に差がある。自分たちで出来る対応についても差がある。特に新しいスタッフは、不安もあると思うので、繰り返し指導していく。	○	日頃の観察不足があるので、しっかり観察出来る様にして、常に「予防」を頭に入れておかなければならない。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、今飲んでいる薬の目的や、副作用について、誰でも見れる様にしてある。わからない事は、主治医に詳しく聞く様にしてある。	○	時々、飲み忘れがあったりするので、チェック表をしっかり活用していかなければならない。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状態を把握し、一人一人に合った分量の下剤を服用し、補水、マッサージ、食物繊維、ヨーグルト等の工夫を行っている。	○	もっと予防の意味で、運動についての考えをスタッフが持って、飲食物と合わせて考えていかなければならない。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけし、自力で歯磨きをしていただき、その後、介助し、磨く。朝晩のみと自分のペースがある方には、無理には、声かけしない。	○	定期的に歯科受診をし、入れ歯があっているか、確認していきたい。

鹿児島県　グループホームローズタウン　ウィオラ

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食、副菜に分けて食事量を記入し、水分量の記入、刻み食、一口大、お粥と分けて支援している。水分の少ない方は、ゼリー等で補っている。	○	より、一人一人に応じた食事や水分量を工夫する。チェック表などを徹底して活用する。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	マニュアルにあるが、常時それが頭にあって、すぐ対応できるか、疑問な時もある。	○	火災訓練等と同じ様に、機会あるごとにシュミレーションして、慌てることのない様に繰り返し周知していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日夜間帯、まな板等、消毒を行っている。買い物もその都度、新鮮なものを購入するようにしている。	○	時々、使い残りが、そのままになっている事もあるので、経済面からも、しっかり管理していく。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	防犯上の問題があるが、全体的に冷たい感じがしているのは、事実である。もう少し工夫が必要である。	○	利用者にとっても鍵をかけることを常態化させることなく、「自由」「安心」な環境作りをより一層すすめていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しずつではあるが、取り組んでいっている。利用者とスタッフが一緒に空間作りを進められていけたらと思う。	○	スタッフも「環境」との思いで、スタッフの価値感だけで、共用空間作りをしない様に注意していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地が悪そうな時は、和室へ案内したり、共用空間で話しが（2人）で盛り上がっている時は、居室へ案内を行っている。	○	場所の制限はあるが、スタッフの声かけも合わせて、勉強していかなければならない。

鹿児島県　グループホームローズタウン　ウィオラ

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	まだまだ不十分である。ただ休むだけになっている部屋もある。家族への働きかけも足りないと思う。	○	本人や家族への理解が得られる様に努力して居心地の良い環境作りを実践していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度についてはエアコン等、注意しているが、一人一人に合った温度調整が出来ている様には、思えない。においや換気については、スタッフによって感じ方に差がある。	○	スタッフサイドの感覚に頼らず、利用者の立場に立った「配慮」が出来る様、全員で、より一層努力していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で便利に出来ているが、あまりにも便利で本人が戸惑ってしまう、力まで奪っている様に思える。	○	まずはスタッフが利用者の状態把握をしっかり観察して、一人一人の身体機能を常に知っておく必要がある。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	まだまだ一人一人のわかる力を理解していない。その為にケアに過不足があり、「自立」の為の環境作りが出来ていない。	○	「自立支援」を念頭においた環境作りの為、全員で理解を深める努力をしていかなければいけない。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の構造上制限はあるが、ベランダ等を使って花を植えている。しかし、一部の利用者に限られている。	○	制限があり難しいが、一人一人の力量の見極めを行い、工夫して、楽しい場所になる様にしていきたい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

鹿児島県　グループホームローズタウン　ヴィオラ

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

何か「させる」のではなく、「する」ことへのきっかけ作りに力を置いている。利用者が戸惑ったり、悩んだりしながらも、自主的に「する」事に意義があると思う。「考えないケアは、むだなケア」とスタッフが思えるようになっていきたい。